

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

小児外科（2～9ヶ月）

1 目的と特徴GIO

小児科疾患において小児外科疾患の占める割合は少なくない。また小児外科疾患の特徴としてしばしば生命を左右することがあり、迅速な診断と治療が求められる。日常臨床における症状と身体所見、簡単な検査より小児外科疾患を鑑別し、緊急性の判断、行うべき初期治療について学ぶことを目的とする。研修医の将来の専門性にかかわらず、医師として小児外科疾患に適切に対応できる基本的な診療能力（態度、技能、知識）を修得することをGIOとする。

2 プログラム管理運営体制

東邦大学医療センター大森病院外科のスタッフ会議にて、本プログラムの管理、運営を検討する。必要ときには、一般消化器外科・小児科の指導責任者の参加も求める。プログラム内容や運営に問題が生じたときは合議の上で修正や変更を行い、必要に応じて指導医を対象とした会を開催して情報の伝達やアドバイスを行う。

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は2～9ヶ月である。

この間の研修病院の移動は、原則として認めない。

東邦大学医療センター大森病院においては、小児病棟に配置される。指導医の下で周産期病棟および小児病棟の患者を担当し、必要な検査や外来診療にも関与する。

3-2 到達目標

3-2-1 行動目標SB0

- 1) 小児外科疾患における重要な症状を理解し、適切な身体診察を行うことができる。
- 2) 状態に応じた適切な検査を選択し、行うことができる。
- 3) 鑑別診断と重症度の評価を行うことができる。
- 4) 初期治療を的確に行うことができる。

3-2-2 経験目標SBO+LS

3-2-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 問診にて重要な小児外科疾患の可能性を考えることができる。
- 2) 身体診察にて腹部の所見の把握を的確に行うことができ、記載できる。

- 3) 代表的な小児外科疾患の典型的な腹部レントゲンの所見を評価できる。
- 4) 注射法（点滴、静脈確保）を実施できる。
- 5) 手術の適応と方法を理解する。
- 6) 上部消化管造影検査
- 7) 下部消化管造影検査

3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 鼠径ヘルニア
- 2) 急性虫垂炎
- 3) 腸重積症
- 4) 停留精巣
- 5) 陰嚢水腫
- 6) 乳児痔瘻

3-2-3 評価基準

小児外科疾患に適切に対応できる基本的な診察能力（態度、技能、知識）が修得されたかを基準として評価する。病棟看護師長、診療チームメンバー、副病棟長、病棟長それぞれを対象とした評価表を使用する。

3-3 勤務時間

研修期間中の勤務時間、休暇、当直に関しては東邦大学医療センター大森病院の規定に従うが、勤務時間は原則的に午前 9 時から午後 5 時である。しかし抄読会、症例検討会、勉強会などは勤務時間外にも行われ、また担当患者の状態によってはこの限りでない。一般外科医として上級医とともに当直にあたる。

3-4 教育行事

1. 総回診：毎週土曜日午前 9 時から。担当医として症例の説明を行う。
2. 症例検討会：毎週土曜日総回診終了後。主に研修医が担当症例の報告と文献的考察を行う。
3. 抄読会：毎週月曜日、午前 7 時 45 分から。上級医師による海外研究論文の要約発表の後、研修医に対して病態・検査・治療等に関して定期的に与えられるテーマについての文献を検索し、最低 3 つの英文論文を読みこなして要領よくまとめる。
4. 講演会：年に数回。外来講師を招いて行う。

3-5 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、基幹病院である東邦大学医療センター大森病院小児外科の指導責任者にある。研修医は診療チームに配属され、チーム長の指導医の下でチームの一員として指導を受ける。チーム長以外のチームメンバーからもさまざまな指導を受けるが、直接的な指導責任はチーム長の指導医にある。

4 研修医個別評価

プログラム修了時に、病棟看護師長、診療チームメンバー、副病棟長、病棟長の評価表を参考に、小児外科疾患に適切に対応できる基本的な診察能力（態度、技能、知識）が修得されたかを指導医が総合評価する。各種教育行事への出席状況、研修医症例発表会での発表回数や内容も評価の対象となる。